

旅立ちの季節

多くの渡り鳥が春分の日を境に、次々と北の繁殖地へ帰っていく季節となった。ハクチョウやマガモ、マガンなどの多くのカモ類が、大浦沼に降り立ちました。

ここは、渡り鳥が北の繁殖地へ向かう途中の大事な中継地点です。大浦沼は安全が確保でき、田んぼには体力をつける餌が豊富に存在します。周辺には1000羽を超える仲間が集まるところもあります。雪が消えかかった田んぼを目指して降りたハクチョウは、稲の根や落ち穂を探しながら夢中になって食べていた。雪が徐々に溶け出して、土が柔らかくなっているのでしょう。



神宮寺岳を背景に新幹線こまちが通り過ぎた。

コハクチョウとオオハクチョウが約50羽、仲良くお食事中です。

田んぼの近くを秋田新幹線こまちが近づいてきた。3月は各学校の卒業式や人事異動などで、新しい勤務地への移動など人々の交流が始まりました。新幹線には新しい社会人へと向かう若者も乗っていることでしょう。

ハクチョウと新幹線を眺めながら、若者も野鳥も明日への希望を胸に旅立っていく季節を実感しました。



大浦沼周辺の田んぼで1000羽を超えるハクチョウが餌を漁っていた。奥羽山脈がくっきりと見えた。



柔らかな日差しを浴び休んでいる個体も多い。



不用意に近づきすぎたので、一斉に頭をもたげ警戒した。直ぐ距離をとり引き下がりました。



遠くには鳥海山が眺められ、自然の豊かさを
感じる故郷です。